

ちちぶだより



「おかしもらったよ」 「ぼくは鬼太郎だ！」

2023年 第344号

◆ 地域のニーズに応える取り組み

○ 発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポート事業について

齋藤 信哉 …………… 2

○ 発達が気になる子どもの保育実践研修について

真壁 毅 …………… 3

○ 令和5年度第1回子育て支援セミナー報告

杉永麻菜美 …………… 3

◆ 第三者委員紹介

北川 聡子 …………… 4

◆ 夏の思い出写真館 …………… 5

◆ 各寮の様子 夏秋編

かりん寮 岡崎恵美子 …………… 6

けやき寮 清水 康平 …………… 6

どんぐり寮 植田 萌衣 …………… 7

くぬぎ寮 勝又 祐貴 …………… 7

◆ 熊澤先生のゆる～くかた～く

「自閉スペクトラム症（ASD）の〇〇さん？」

熊澤 海道 …………… 8

◆ 児童の動き 行事予定 …………… 8

地域のニーズに応える取り組み

国立障害者リハビリテーションセンターの中期目標に沿った取り組みの中で、今回は秩父学園が地域に求められ、行っている「支援者を支援する」取り組みについてお伝えします。

発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポート事業について

地域支援課長 齋藤 信哉

秩父学園では、「支援者を支援する」と言う目的のもと、知的障害児だけではなく、発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポートやスキルアップのための支援として、全国の保育所や幼稚園等に専門的な知識や技術を持った職員を派遣しています。

サポートの内容は、①発達や行動が気になるお子さんへの支援の見立てや環境設定の提案、②勉強会の講師派遣、③ケース検討会への出席、④情報提供や支援者セミナーの実施など、派遣等をご希望される事業所とご相談しながら、それぞれの事業所が必要としているサポートを提供しています。

実際に現在までに派遣した事業所は、保育所、幼稚園、認定こども園、乳児院、児童養護施設、放課後等デイサービス事業所、放課後児童クラブ、児童館、県地区保育協議会、市青少年課（児童館・児童クラブを管轄）と多岐にわたっています。またニーズとして多いのは、①お子さん

への支援の見立てや環境設定の提案、②勉強会の講師派遣です。

お子さんへの支援の見立てと環境設定の提案については、以下の例のように実施しています。また、お子さんの観察・見立て・支援のアドバイスは、状況に合わせて訪問日を一日で行っている場合と二日に分けて行っている場合があります。その場で支援のアドバイスをして終わりとするのではなく、実際に提案した支援方法の中から実施可能なものについて取り組んでいただき、三ヶ月後のアフターフォロー時に、取り組みの結果報告の中から、必要に応じて支援内容を再検討しています。

勉強会の講師派遣については、事業所職員の支援力向上を目的に「特別な支援を要する子ども」の理解や支援についてという内容でお話しさせていただいていますが、ご要望に合わせた内容でお話しする場合があります。最近、一つの事業所だけでなく、近隣の事業所や行政機関などに参加を募り、合同研修会として実施することも増えてきました。

今年度より、対象を全国に広げて広報を行ったところ、岩手県、山形県、群馬県、広島県、佐賀県、沖縄県等全国各地から申込みがあり、ニーズに合わせ職員を派遣しているところです。

派遣先の事業所でお話しを伺うと、各自治体で実施されている巡回相談や、巡回支援専門員整備事業の実施状況の違いが出てきます。申し込んでも待機時期が長くその間に子どもの課題が変化してしまう、必要な時に必要な支援が欲しいなどの声もあり、各自治体への情報提供や情報共有も必要になってくると感じています。

子どもの見立てと環境設定のサポート例（1日バージョン）

		秩父学園サポート職員（2、3名程度）	依頼機関（保育所・乳児院・児童館等）
訪問前		対象児童と相談内容についての聞き取り	・申込書の提出 ・相談内容や対象児童についての説明
訪問日	AM～昼食場面 (2時間程度)	・対象児童と活動の観察 ・支援者からの聞き取り	普段の活動設定
	1時間程度	・観察内容の共有 ・アドバイスの内容検討	
	PM (1時間～2時間程度)	・今後の支援についてアドバイス ※支援者と話し合いながら具体的な支援方法を検討	・秩父学園職員と今後の具体的な支援方法について検討
アフターフォロー (訪問またはWEB)	約3～4ヶ月後	・進捗状況の確認 ・実施した支援と対象の変化について振り返り ・支援者と今後の支援について再検討	・進捗状況の報告 ・進捗状況の確認 ・アドバイスを受けて実施した支援について、対象児の変化について報告 ・今後の支援について、秩父学園職員と再検討
	アフターフォロー終了後		アンケートの提出

秩父学園においては、この「職員派遣」を通して職員の人材育成も進めていて、派遣先に若手職員も同行し、お子さんの困りごとの見立て方、支援方針、人に伝える伝え方、研修会においての話し方などを学んでいく中で、「Next Generation」の養成も合わせて行っています。

支援者の方がお子さんの支援に困っていると

言うことは、そのお子さんも必ず困っていると言う視点を大事に、支援者に対する支援を今後も行っていくたいと考えています。

発達が気になる子どもの 保育実践研修について

地域支援課 地域療育支援室長 真壁 毅

秩父学園では平成二十七年から、週に一度の幼児療育を利用して、現職の保育士等を対象とした実践形式での研修を行っています。今年度も毎週火曜日の療育三回を一セットに行っています。多くの保育士の方は、実際に療育をしている現場を見る経験がないため、療育に参加すること自体が学びとなっているようです。一週目の実習を終えた保育士の方から「秩父学園での支援をヒントにして保育所でも取り入れてみました」といったことが翌週に聞かれるほど、皆さん意欲的に取り組まれています。

研修を通して、いろいろな悩みや相談を受けますが、保育士としては専門外でありながら、保護者から言葉の遅れ等の相談を受けることが少なくないそうです。そのため、必要に応じて秩父学園の言語聴覚士からも助言を行っています。これまで、専門的な見地からの助言が参考になった等の感想が寄せられています。私たちは成長の過程で、言葉だけでなく多くのことを日常生活を通して自然と身につけてきましたが、いろいろな理由でそのことが難しいお子さんもあります。一番困っているのは子ども自身なのだというのを頭におきながら、なぜできな

いのか、どうしたらできるようになるのか、支援者としての目を養う必要性を参加者には伝えています。

子どもが何かをできるようにするためには、適切にほめてあげることが大切です。研修の中で、親子相互交流療法（PCIT）の考え方をもとに、子どもの行動をほめる方法を心理士から伝えていきます。皆さんも経験があるかと思いますが「お子さんのことを、たくさんほめてあげてください。」と言われても、どんなところをほめればよいのか、具体的にどのようによめればよいのかわからないことが多いものです。支援者が「自分でお片づけして、えらいね。」等、子どもの態度や行動に対して前向きな評価を表して具体的にほめることで、子どもは自分のことをよく見てもらえているという実感が生まれ、ほめられた行動がさらに増えていく好循環が生まれます。また、ほめられた経験は子どもの自尊心の成長にもつながります。

保育所と秩父学園とでは教室の配置等、大きく環境が異なっているので、秩父学園での支援方法をそのまま保育所に持ち帰ることは難しいです。保育所でも取り入れやすいようなヒントをできるだけ多く提供できるように努力していますので、研修で得た学びを所属する保育所全体で共有してもらい、児童の健やかな成長につなげていただきたいと思います。



※PCITとは、行動上の問題を有する子どもや育児困難を感じている養育者に用いられている療法です。

令和五年度 第一回子育て支援セミナー報告

地域支援課 地域支援主事 杉永 麻菜美

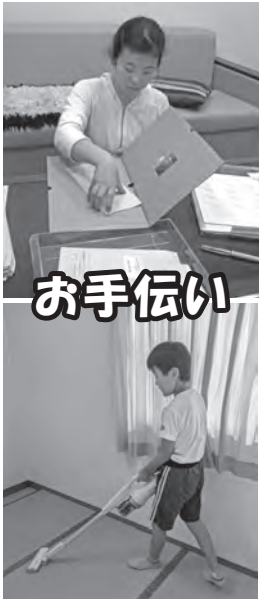
秩父学園では自閉スペクトラム症やその他発達障害のある子どもへの療育の知識や支援方法を学ぶことを目的として、「子育て支援セミナー」を年二回開催しています。今年度第一回のセミナーは七月二十九日（土）に二人の医師を講師に招き、オンラインにて行いました。

大屋滋先生（総合病院旭中央病院脳神経外科特任医師・NPO法人あおぞら理事長・千葉県自閉症協会会長）には、「自閉症の家族を持つ医師からの子育て支援の実践」のテーマで、自閉症のお子さんの親として子育てに関わってきた経験も踏まえた医師の視点でお話いただきました。受講者からは「障害児の親として子育てする中で葛藤や怒りを乗り越えて子どもと向き合っている姿が印象深かった。」「あるがままを受け止める、認める、任せる大切さを再確認できた。」「試行錯誤の実際を伺い、人としての価値は障害に関係なく同じと気付かされた。」「支援とは日々の生活に密着したものと改めて学んだ。」「自閉症スペクトラム症の方はコミュニケーションが取りにくいと感じているが、それぞれに意思があり本人の価値や行動を尊重することが大切。」「理解して味方を増やす、まさ

に地域支援が重要。」など多くの感想が寄せられました。

熊澤海道先生（国立障害者リハビリテーションセンター病院 歯科医長）には、「歯科医師からみた自閉スペクトラム症の人への支援について」のテーマで、日頃から秩父学園の子どもの達の主治医として接しながら、自閉スペクトラム症の子ども達への支援を歯科医の視点からお話いただきました。こちらにも「歯科の実践を通して、医療、福祉、教育、家族が連携し協力することが必要。合理的配慮や支援が普通に行われることを望む。」「動画やスケジュールを活用し、環境設定と本人のタイミングを尊重していた。」「この子は何をしたいのか、今何をしたいのか、どのように行えば歯磨きができるのか、本人の性格や特性がわかった上で診療すると受け入れてくれやすいと実感した。」「導入と合理的配慮を重視したプレパレーションは、他の支援場面にも共通すると感じた。」「家族も含め多職種で互いに行えることできないことを話し合って併せることができれば良い支援が展開できると思う。」等多くの感想が寄せられました。

第二回目は令和六年一月二十七日（土）を予定しています。セミナーの詳細は今後掲載される秩父学園ホームページをご覧ください。



第三者委員紹介

千木良正氏（弁護士）、山本進氏（社会福祉士事務所長）に第三者委員をお願いしています。新たに北川聡子氏にもお引受けいただきましたのでご紹介します。

秩父学園に望むこと

第三者委員 北川 聡子



こんにちは。秩父学園の第三者委員を仰せつかりました北川聡子です。

私は、札幌で障害のある子どもと家族の支援、社会的養護の必要な子どもたちのファミリーホームや里親支援などを行っている社会福祉法人麦の子会の理事長をしています。むぎのこの周りには、障害のある子どもたちと家族が住んでいて、大きくなった青年がこの地域のグループホームで暮らしています。障害のある子どもたちも丁寧に肯定的な環境で育てる事で、大きくなって安定した大人になることを教えてくれます。でも子育ては、特に障害のある子どもの子育ては、とても大変ですので家族支援はかせません。子どもはみんなで育てていくことが大切だと思っています。

秩父学園は、国立で唯一の福祉型障害児入所施設で社会的養護の必要なケアニーズの高い子ども達の安心安全な受け皿になっています。また地域の幼児の支援、学齢期のこどもへの支援としてご家族や支援者への研修、地域の保育園な

どへの職員の派遣などに取り組んでいるということで大変重要な役割を果たしていると思います。

今後は、特にケアニーズの高い子どもの専門的ケアや家族支援のノウハウを同じ障害児入所施設等に伝えていただき、国立の施設として、モデルになって子どもを権利の主体として育て、また家庭的な養育にも取り組めるようになることを期待します。



食育



各寮の様子

夏秋編

かりん寮

岡崎 恵美子

今年の夏は本当に本当に暑い日が続きました。夏バテが心配されましたが、女子パワーで乗り切りました。(九月も容赦ない暑さに職員はゲンナリでした...)暑い(苦しい?)夏、プールの他にかりん寮はイベント盛りだくさんでした。

イベント①かき氷!大きなシロップを購入し、八月〜十月の間に五回かき氷大会をしました。毎回好評で、嬉しそうな笑顔と汗が印象的でした。

イベント②シャボン玉大会。大きなシャボン玉作りに児童も職員も真剣。大小のシャボン玉が始まると、素敵な空間と時間に清らかな気持ちになりました。

イベント③お月見カード作り。自分の好きなキャラクターを入れたカードを作りました。カードのレイアウトも自分達で決め、気持ちのこもったカードができあ



がりました。

二学期が始まり、学校ではまだまだプールの授業がありました。他の授業や行事の何よりもプールが大好きなかりん寮女子は、最後までプールを楽しんでいたようです。

長引く残暑...でも暦では秋に。十月に入るとようやく涼しく、過ごしやすいく候になり一安心。週末はおしゃれをして、天気の良い日には、外でランチ。十月最後のイベントはハロウィンです。さて、今年のハロウィンはどうなる事でしょう。楽しみです。

けやき寮

清水 康平

夏休み期間は、プールで活動しました。涼しさでリフレッシュしながら、みんなで元気いっぱい水遊びを楽しみました。広いプールを元氣いっぱい泳ぎ回ったり、職員と一緒に浮具を使って気持ち良さそうに過ごしました。七月には少し冷たく感じたプールも、八月に入ると丁度良い水温で、快適でした。

今年の夏祭りはコロナウィルス感染・拡大防止のため規模を縮小して開催し、夏の風物詩である花火観賞を楽しみました。学園では夕暮時



に外で過ごすことも珍しいので、夜空の下でみんなと一緒に過ごす時間は思い出に刻まれたのではないのでしょうか。

九月に入り二学期がスタートしましたが、けやき寮の児童は夏休み中も規則正しい生活を送ることができていたので、毎日時間を守りながら登校しています。今年度も残すところあと半年となりました。けやき寮には小学六年生、中学三年生、高校三年生と卒業年の児童が八名在籍しています。

十月、富士山方面に修学旅行に行った中三児童は、サファリパークで大きなくだを見たことやホテルが最高でぐっすり眠れたことを目を輝かせて話してくれました。大阪方面に修学旅行に行った高二児童は、USJでアトラクションに乗って楽しかったと、お土産で買ったコップを寮で愛用しています。節目を迎えるにあたって有意義な時間を過ごし、素敵な思い出をたくさん作っていただきたいと思います。



どんぐり寮

植田 萌衣

夏休みは、「夏と言えば！」の詰め合わせでした。

プール・数年振りに他寮の児童と一緒に遊泳しました。水をかけ合って遊んだり、浮き輪でブカブカ浮かんだり、水の感覚を存分に味わっていました。

屋台イベント・輪投げ、射的、ジュース釣りを

行いました。狙いを定めて、本格的にポーズを決めながら、お菓子やジュースの的に見事命中させました。

スイカ割り・目隠しをしながらも、高い的中率でした。大きなスイカを頼

張りました。

花火・第一弾は打ち上げ花火の鑑賞。大きな

花火と音に歓声が上がりました。第二弾は、手持ち

花火。怖さを感じていた児童も、挑戦してみると「きれい」と笑顔がこぼれました。

九月は、夏休み気分に残り髪を引かれながらも、久しぶ

りの登校にペースを取り戻した皆さんでした。休日、四季折々の草花の中、残暑の空気を感



じながら、お散歩を楽しみ、体育館で汗を流しました。

十月に入ると学園の葉も色づき、紅葉狩りを楽しみながら買い物等に出かけました。買い物は児童が楽しみにしている活動の一つで、甘いお菓子や塩っぱいカップ麺が人気です。おやつ食い競争も開催し、パン食い競争のように、一口でお菓子をパクリ！運動会気分を感じられたようです。

また、中三児童は修学旅行に行き、遊園地のアトラクションで濡れながらも次はどれに乗りうかと走り回った人や、お土産選びやレストランが楽しかった人などそれぞれに楽しめました。高二児童は修学旅行は行かないとはっきり自分の気持ちを伝えることができました。修学旅行に代えて、寮でご本人の好きな電車を見に外出しました。

早いもので、今年も残すところ二ヵ月となりました。これからも児童の熱量で、寒さに負けず、楽しい時間を過ごしていきたいと思えます。

くぬぎ寮

勝又 祐貴

秋空が気持ちよく澄み渡る好季節となりました。ここでは、夏休みにあったイベントの様子をお伝えします。

『調理活動』。学園の調理師さんと食育活動を行い、カツ丼を作りました。始めに流れの説明やお約束の話があり、その後調理に移りました。玉ねぎを炒め、卵を溶いて流し込みました。自

分達で作ったのでより一層美味しく感じ完食。「楽しかった。またやりたい」と話していました。

『かき氷』。かき氷を食べるならやはり夏季ですね。味(シロップ)は、イチゴ、レモン、メロン、ブルーハワイ、抹茶、カルピスと豊富で、トッピングに練乳がけも選べ、嬉しそうに、また暑い日だったので、皆さん汗をかきながら食べていました。たくさん一気に食べた児童は頭がキーンときて、かき氷だけに「もうこーりーりだ」だの表情でした。

『ミニキャンプ』。夏らしい活動の体験として、夏休みの最後に寮の中庭でミニキャンプを行いました。七輪を使ってお湯を沸かしカップラーメン作って食べ、弱火になった薪で、マシユマロを焼いて食べました。その他にアイスを食べたり、手持ち花火を行い楽しみました。

くぬぎ寮の皆さんは、夏の思い出とともになんだか一回り大きくなったような…たくましく元気に過ごして



います。今後も皆さんが楽しみにしている行事や外出等を企画し、様々な経験や思い出を作れるようにしてまいります。

熊澤先生の「ゆる〜くかた〜く」



自閉スペクトラム症(ASD)の〇〇さん？

国立障害者リハビリテーションセンター病院

歯科医長 熊澤 海道

性懲りもなく再び登場しました、熊澤です。前回から開始させていただきました「熊澤コラム」、今回は、「人を知る」ためにまずはこう考えたいなと日々、熊澤が勝手に思っていることをお話ししたいと思います。

知的や発達障害のある方々を含め、人と接する時に大事なことを考えていることは、最初に「その方自身を知ること」と前回のコラムに倅そうにも書かせていただきました。

しかしながら、「人を知る」ということは言うは易く行うは難しでありまして、そう簡単にできることではございません。そんな中で大事ななと思うことは「先入観は持ちすぎず」ということです。たとえば、ASDの方がいるとします。最初の印象で「ASDの〇〇さん」と考えるか「〇〇さんはASD」と感じるかは大きく変わってくると熊澤は感じています。数ある書籍や研修会で「ASDの特性」を学ぶ機会は多くありますが、そこだけに注視してしまい「ASDはこうだ!」と先入観から視野を狭めてしまうとその人の「本質」に気付きにくくなり、よりよい接し方も見えづらくなってしまうかなと考えています。「ASDの〇〇さん」ではなく「〇〇さんはASD」と捉え「〇〇さんはこういう人なんだ、ああ確かにここはASDの特性ありそうだけど全部は当てはま



入所児童の動き

〇十月に男児一名が埼玉県内の医療型障害児入所施設に、女児一名が神奈川県内のグループホームに移られました。

ないよね。だって、人間だもの」と考えられたら「ASD」にばかり重きを置くことなく「〇〇さん」をより深く知ることができるようになるのではないかなと思っています。

「肩書」に捉われず「人」を知り、「人間」と関わっていきたいと思う今日この頃の熊澤でした。



行事予定

- 11月14日 合同防災訓練
近隣施設・町内会参加
- 12月25日 クリスマス会
- 1月1日 新年のつどい
- 9日 大防災訓練



編集後記

過ごし方を工夫した夏、そして秋。子ども達の様子をお伝えしたくて、今号は写真をたくさん載せました。非日常も楽しくていい。でも日常の表情もいいんです。一日一日を大切に。

(麻)

発行日 令和五年十一月二十日
発行 国立障害者リハビリテーション
センター自立支援局秩父学園

住所 〒359-0004
埼玉県所沢市北原町860

TEL 04-2999-2839

FAX 04-2999-2253

chousa-chichibu@rehab.go.jp